

被災地の時計の針

「あの日、この国の人時計の針は止まった。すぐ動き出した人もいれば、ゆっくりとしか動かない人も、止まったままの人もいる。」と被災地から小説で問いかけている作家がいる。「原発事故の恐怖を忘れないために私は制作を諦める事はできません。」と語り映画を作った監督がいる。4月委員会では轍の内容について話し合った時「被災地の何が変わり、何が変わっていないか知りたいし、知って欲しい。」という声が出された。そこで、考えたいこの数字 **9万6544人。今現在の避難者数**です。震災直後は推定47万人だった。確実に減りはしているものの、この数字についても考えてみたい。**2万4千人は、原発事故で帰る事がままならない人**。先日原子力機構の事故で内部被曝が報道された。福島の人々をはじめ原発再稼働の近隣の人々の思いは複雑である事は変わらない面の一つだろうか。

災害から学ぶユニバーサルデザイン

あなたは災害に遭遇したとき、自分の身を守るためにどんな行動をとりますか？まずは食料の確保や避難場所の確認、医療援助などを得ることでしょうか。しかし中にはそれらを自力で行うことが困難な人もいます。そのような「災害時要援護者」は一般に、高齢者や障がいのある人、外国の人、乳幼児、妊娠している人などを指します。もちろん周囲にいる人がその都度気にかけることで手助けできますが、避難が長期化すれば問題も増えます。東日本大震災が起きる以前から、防災対策として議論・改善され、使いやすくされたもの、わかりやすい表示となって新開発されています。今回はその一部を紹介します。



VAN project 避難所用仕切り

上の写真の通り、避難所内で苦勞することとして、プライバシーの問題があげられます。ひと目を常に気にすることで疲労感がたまり、被災者同士の関係に支障が起こりやすくなります。そこで、紙と布でつくられた「簡易仕切り」が考えられ提供されてきました。このように災害で困ったことを聞き出し、簡単なもので解決に導くアイデアこそ、ユニバーサルデザインの基本です。この支援は東日本だけではなく

く熊本県や、ネパール、イタリアで起きた地震の避難所にも提供されたそうです。
詳しい情報は、「Voluntary Architects Network」で **検索** してみましょう。

新連載「となりの委員さん」～実行委員からのメッセージ～

新年度をむかえ、「東日本大震災被災地応援実行委員会」も新しいメンバーを迎えました。

現在高3～中1まで高校生9名、中学生60名の大所帯です。

今月号から、高校2年生から順番にご紹介していきます。これを読んで活動に興味を持った方は、あなたのクラスやとなりのクラスの委員に、ぜひ気軽に声をかけてみてくださいね！

Q 委員会の活動に参加したきっかけは？

中1の総合の授業で今井先生に声をかけていただき、何か力になりたいと思ったからです。私たちの支援をとおして、前向きに頑張ろうと思って下さる人がひとりでも増えればうれしいです。

Q 特に印象に残っている活動は？

ボランティア活動をしていた時に「ありがとう」と声をかけていただいたこと。この一声で、私たち活動に意味があることを実感させられました。

(高2-3 上尾さん)



Q 委員会の活動に参加したきっかけは？

もともとボランティアに興味があり、買い物をした時などにたまに募金をしたりしていたのですが、私がこのこの少しのお金を募金したところで果たして役にたつのだろうか、と疑問を抱いていました。中1の時に今井先生からこの委員会のことをうかがい、「団体」で活動することで、より積極的な支援ができると考えて参加を決めました。

Q 特に印象に残っている活動は？

新大宮商店街のお祭りでチャリティー活動をした時にお配りした広報誌を受け取って、真剣に読んで下さった人がいたことです。

(高2-3 今井さん)



保護者の皆様、体育祭当日の募金有難うございました。

東日本応援オリジナルグッズ販売 ¥34,250

東日本支援募金額(6月9日) ¥11,290